和教時報

2021年11月15日（月）発行　第1979号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みばん

2021衆議院選挙

改憲派が3分の2を占める 国民世論の力で憲法九条を守ろう！

和教組　執行委員長　武田　正利

憲法改正の国会発議には衆議院・参議院それぞれで三分の二以上の賛成が必要です。一〇月三一日に行われた衆議院選挙の結果、自民党は一五議席減らしたものの、自民・公明の与党で二九三議席を獲得し、改憲賛成派の日本維新の会を合わせると三三四議席となり、改憲発議に必要な三分の二（三一〇議席）を超える結果となりました。

世論調査では九条改憲反対が多数！

岸田首相は選挙後の記者会見で、改憲に向けて積極的に取り組んでいくことを表明しました。毎日新聞の調査では、今回当選した議員（四六五人）のうち、事前アンケートで憲法改正に「賛成」と回答した議員は七七％で、九条への自衛隊明記についても五七％が「賛成」と回答しています。また、コロナ禍を口実に、非常時に政府が国民の基本的人権を制限することを可能とする「緊急事態条項」を憲法に盛り込むべきだとの主張も強まっています。

国会議員の数では改憲賛成派が多数を占めていますが、マスコミ等の世論調査では「憲法改正」についての賛否は拮抗し、「九条改憲」については反対が多数を占めています。

来年夏には参議院選挙！改憲派を少数に！

参議院は前回二〇一九年の選挙の結果、改憲派は議席を減らし、改憲発議に必要な三分の二を下回っています。しかし、その差はわずかで、改憲派は「野党の中にも改憲派の議員はいる」「改憲は自民党の党是だ」と改憲に執念を燃やしています。

来年の夏には参議院選挙が行われます。平和を求める市民と立憲野党の共闘の力で、九条改憲ＮＯの声をさらに大きく広げて改憲派を少数に追い込み、平和憲法を守りましょう！

要求運動を強め、公約実現を求めていこう！

自公政権が継続しますが、両党とも選挙公約で「少人数学級推進」「教職員の働き方改革」などを掲げています。選挙の時だけの「口約束」に終わらせることなく、教育全国署名の推進など要求運動を強めて、政府に教育条件改善を求めていきましょう！

ピンポイントスポット 397

最近、私が家で座っていると小二の娘が膝の上に乗ってくることが多くなっているように思う。お風呂に入るのも、寝るときも家族三人一緒でいう。小学校に入る時には、少しでもお姉さんになろうとしていたのか、「自分のベッドで寝る」と言っていたのに。小学校へ行きだして、不安な気持ちが増えているのだろうか？

コロナ禍の中で子どもたちが抱えるストレスが、今まで以上に増えているのは間違いない。給食の時間に楽しく「○○、おいしいなあ」という会話もできないと娘もぼやいていた。また学校ではマスクをしているせいで、なかなかお互いの表情が分かりづらく、子ども同士、教員と子どもも意思疎通が図りにくいのではないかと思う。

コロナ禍だからこそ、子どもに寄り添うことの必要性が高まっている。私自身も子どもとの時間を大切に過ごしたいと思う。（Ｎ）

有田 支部教研開かれる 和歌山市

コロナ禍の課題にどう向き合うべきか

和歌山市支部　書記長　平田　秀一

▲全体会

一〇月一六日（土）に支部教研を開催しました。分科会では、「小学校の授業作り」、「特別支援教育学習交流会」、「中学校問題交流会」の三つに分かれました。授業作りでは体育の授業づくりの実践報告をもとに話し合いました。特別支援教育学習交流会では、小・中・障害児学校と三校種の障害児教育に関わる先生が参加できたことで、異校種間の交流ができとても有意義でした。中学校問題交流会では、校則改正の取り組みの報告を開くために、保護者の方や全体会講師を引き受けてくださった和歌山大学教育学部准教授の谷口知美先生も参加してくださり、とても楽しい分科会になりました。

▲小学校の授業作り

▲特別支援教育学習交流会

全体会は、谷口先生が「コロナ禍の課題にどう向き合うべきか～子どもの貧困と教師の支援～」と題して、子どもの貧困問題を中心に講演してくださいました。全体会はＺｏｏｍを使ってオンラインでも配信しました。「たくさんの資料や実例、ＶＴＲを駆使して、見えにくい子どもの貧困の実態がとてもわかりやすかった」、「今日は悩んだけど来て良かった」という感想が寄せられました。

▲中学校問題交流会

全体会を通して、様々な背景を抱える子どもたちの理解を深めながら、コロナ禍も含めた社会問題を実践の中で扱っていくべきことが提起されました。また、教育実践の充実だけでなく、子どもたちを経済的・文化的な差別から守るためにも、労働組合を通じて、社会を変える運動にも関わっていくことの大切さを感じました。

『学校の在り方』を語り合った支部教研

有田支部　湯浅中分会　林　秀彦

今年度の支部教研は一〇月三〇日に、「コロナ禍の中で、あらためて学校の在り方を考える」をテーマに、市川先生を迎えて開催しました。

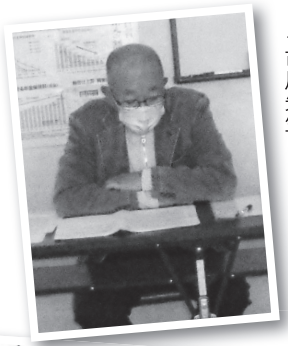
子どもの姿から出発するという当たり前のことを、当たり前に実践することの意義を考えさせられました。

昨年度、安倍元首相の休校要請を受けての臨時休校措置には、多くの教職員・保護者が疑問を感じました。しかし、一年間が過ぎてみて『コロナ禍の中でもなんとかなってよかったという思いを持ったのではないか』という問いは、参加者の胸に刺さりました。

仕事をこなすことに精一杯になって、おかしいと思うこともなくなっている学校現場。この現状は、市川先生が話してくれた『学校の在り方』に立ち返ることでしか変えられないのだろうと感じました。

協議の中では、特にＩＣＴについての発言が多く出されました。一斉授業の中でタブレットを使おうと思ってもつながらない現状、タブレットを活用することが目的になっているのではないか、子どもに情報の正しさを確認する力が育てられていないことなど、多くの問題点を持ったＩＣＴを、使うことが当然のごとくという雰囲気になっています。

ＩＣＴありきではなく、何のためにという素朴な疑問について話し合うことが求められていると思いました。



◀市川先生

署名提出!!

父母・保護者からの熱のこもった訴え

和教組　副執行委員長　野口　共

教育要求県民集会

一〇月二二日（金）、県民文化会館三階特設会議室にて、「第五四回和歌山県教育要求県民集会」が開催されました。このとりくみは一九七一年に一回目が開催され、今年で五四回を数えるという歴史のあるものです。

保護者や地域・市民団体の方々が、県教育委員会に教育要求を直接ぶつけ、過去には、高校の学級増設や障害児学校建設、父母負担軽減など様々な要求が実現してきています。

今年度は、冒頭、現在の小学校二年生以下に限られている三五人学級について、全ての小学校で三五人学級を求める団体署名に取り組み、提出しました。また「和歌山市内に新設の支援学校を求める会」からは、一万筆を超える一人では持ちきれないほどの署名も提出しました。

今回も一〇名の方々から、ご発言いただきました。自分の子どもの様子や親としての思い、地域の高校教育に対する思いを交えながら、「一人でも特別支援学級の新設を」「特別支援学校の新設を」「安心安全な給食を」「地域の高校教育の充実を」「学校のトイレに生理用品を」等、切実な思いが参加者から語られました。

毎年思うことですが、父母、保護者の熱のこもった訴えは、非常に説得力があり、県教委を圧倒するものでした。このみなさんの思いの実現のために私自身も頑張らねばと思わされる集会でした。

いよいよ「未来をひらく教育のつどい」の開催が迫ってきました。

ミーティングID：920 2279 0518　パスコード：123

20日までにログインして分科会レポートをダウンロードしてください。

一一月一日から和歌山県教職員組合のホームページからの申し込みが始まっています。全体会・分科会共通のIDとパスコード（ログインしないと分科会レポートがダウンロードできません）が送られてきます。まだの方は二〇日までですので急いで下さい！オンラインの環境が整っていない方で参加したい方は、和教組までご連絡下さい。

今年は分科会が先に行われます。オンライン開催のメリットもあり、遠くは東京から講座の講師をして下さる分科会や、事前に録画したフィールドワークを流す計画をしている分科会もあります。どれもこれも梯子したい…それもオンラインなら簡単にできますが、やはりじっくり一つのレポートで顔を見合わせて論議をしたいですよね。レポートのダウンロードは一六日以降となっていますのでそれぞれでご準備ください。一六日までにレポートが間に合わない可能性がありますが、当日ご覧いただけるように致します。

全体会の講師は高知県土佐町議会議員の鈴木大裕さんです。アメリカで公教育を学び、日本でも中学校で教鞭をとられていた経験もあります。日本の全国学力テスト体制に疑問をもち、地元、高知県土佐町では、悉皆ではなく抽出にするためにご尽力されました。「娘には学力テストを受けさせない」と、お父さんの立場からも日本の学校の競争主義の体質を批判されています。県民文化会館に集まって直接質問をしてはいかがでしょうか。

シリーズ 中教審答申

学校のゆくえ

POINT 5 一人ひとりが大切にされる教育とは

今回の答申の中核は「ICT教育」の拡大と言えます。何のために使用するのかを教員が意識すれば有効な使い方が可能かもしれません。

実際に特別な支援を要する児童・生徒には個々の障害の程度にあわせて個に応じた指導ができ、全人的な発達を目指した未知の可能性を広げているという事例も聞こえてきます。しかし、対面授業の中にあった、話合いや頷き、さざやき声などを得ることは難しいでしょう。友だちの服装や顔色の変化にも気づくことが出来ないかもしれません。

ICT機器を中核とした教育は「個別最適な学び」と言いながら基礎集団を能力によって分けることや、黙々と課題に向かう「孤立した学び」になることが危惧されます。従来から国連子どもの権利委員会は、勧告の中で日本政府に対し「あまりにも競争的な制度を含むストレスフルな学校環境から子どもを解放すること」とし、画一的で競争主義的体質を指摘しています。一人一台端末の配布がそれに追い打ちをかけることになりかねません。

教員は授業を撮り貯めていますが、コロナ禍においても有効活用されているかは疑問です。機器を使った新たな問題への対策として、慌てて情報リテラシー教育を強化し、結果的にスタンダードを増加させてきています。それらが教職員の仕事をさらに多忙にし、疲弊させてきています。PDCAサイクルの様な産業界の用語が学校現場に入ってきて久しいですが、今の教育制度は子どもたちを商品化し、市場化を更に加速させることに繋がりかねません。勝ち組み負け組の構図を作ったのは、新自由主義の元で作られた概念です。

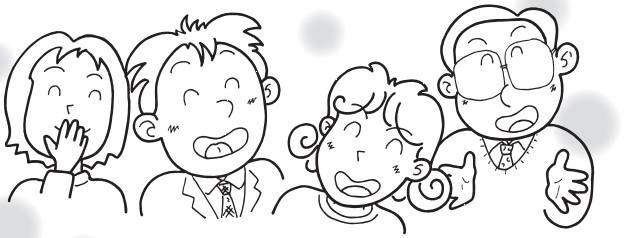
私たちにはコロナ禍でより深刻になった経済格差や環境問題などにも目を向けられるよう、子どもたちに主権者教育を進め、科学的にものごとを学びつづける事を自ら示す姿勢が求められています。

西牟婁ママパパのしゃべり場

西牟婁教育会館の二階に育休中の親子四組。現役先輩が四人、OGが二人集まりました。

初めは、OGの先生がピアノを弾き、リズム体操で場の雰囲気を柔らかくしてくれました。ママから離れて遊ぶ子も出始めてから権利学習の時間に移りました。今年の育休アンケートの結果をもとに、育休中の不安や、復帰する時にどうしたら良いかなどを交流しました。丁度身上調書を提出する時期になってきており、復帰の時、管理職とどの様に話をしていくか等を先輩ママが経験を交えて話してくれました。人事に関することは地教委によって取り組み方が違うこともあり、権利を取得したいと願い出たときに管理職の認識が違ったりハラスメントと受けとめられる様な対応をされ、取得を諦めてしまうケースも出てきたりしています。育児とスムーズな職場復帰のために、交流できて良かったと思いました。

安心と信頼
教職員のための
『教弘保険』



（株）和歌山教弘
提携会社：ジブラルタ生命保険株式会社
■和歌山第一営業所　073-421-8250
■和歌山第二営業所　073-421-8250
■和歌山第三営業所　073-421-8250
■橋本営業所　0736-33-1620
■田辺営業所　0739-22-5751
■新宮営業所　0735-22-0101